

Kaori Nakano

近年、急速にグローバル化がすすみ、西洋のフォーマルウェアのルールと、日本伝統の礼装の決まりごとが混在することで、結婚式場などで混乱を招くことが出てきました。

きちんとしたルールを知りたいという現場の需要に応え、現代のフォーマルシーンにふさわしいルールを整理しました。顧問先的一般社団法人日本フォーマルウェア文化普及協会の理事らと夏休み返上で議論と執筆を重ね、9月中旬に、和洋のルールを総合した「フォーマルウェアの教科書」を出版することになりました。和洋を総合した写真豊富なガイドブックはこれまでほぼなかったので、入門書として多くの方々のお役に立てるのではないかと思います。

それにしても、書くことでいちばん勉強になったのは自分自身です。和装については素人同然なので、和装の専門家から多くを学ばせていただきました。発見の連続だったのですが、面白いと思った和の礼装エピソードのなかから二例をご紹介します。江戸城登城などの際、大名たちは着るすとひきずる長袴を着用しました。なぜか？ 恭順の意を示すためだそうです。

歩きにくい長袴を着用する際は、膝の部分を指でつまんで引き上げ、裾を蹴るようにしながら歩行します。このような動きにくい装束を着用することによって、謀反の意志がないことを示したとのこと。将軍もまた、戦意がないことを示すために長袴を着用しました。なるほど、不

中野香織

時記
96歳
ファッション

江戸城の長袴 夜のモーニング

自由な礼装は、いつ状況が転覆してもおかしくはない時代における、緊張をはらんだ牽制でもあったわけですね。

そんな社会背景を反映する和装の歴史や決まり事を学び、西洋のフォーマルのルールと比較対照してみると、文化の違いもはつきり見えてきます。

たとえば、西洋では当然のように昼と夜の着分けをおこないますが、日本にはその発想がありません。なので、西洋では昼間に着用すべきモーニングコートを、日本では夜でも着る慣習が定着しています。モーニングは文字通り、朝のコートなのですが。

その代わりとってはなんですが、日本には季節による着分けがあります。そして女性は既婚か未婚かによる着分けが求められます。男性は既婚・未婚を問わないのに、女性だけ既婚か未婚かを示さなくてはいけないという日本の慣習は、現代においては性差別的にも見えるのですが、麗しき伝統として守られていくべきという意見も根強くあります。

社会の変化と伝統のせめぎあい問題は、悩ましいところです。夫婦別姓の議論とも重なるところを感じます。礼装のルールは社会の映し鏡でもあり、今はまさに過渡期。夫婦別姓が完全に認められる世代になれば、既婚・未婚の着分けの意味も薄らいでいくかもしれません。現代人が江戸城の長袴を笑うように、未来人が女性のみに要求された着分けを笑っても、まったく不思議ではありません。

なかの かおり

1962年生まれ 富山市出身 服飾作家として研究・講演・執筆をおこなうほか、昭和女

